

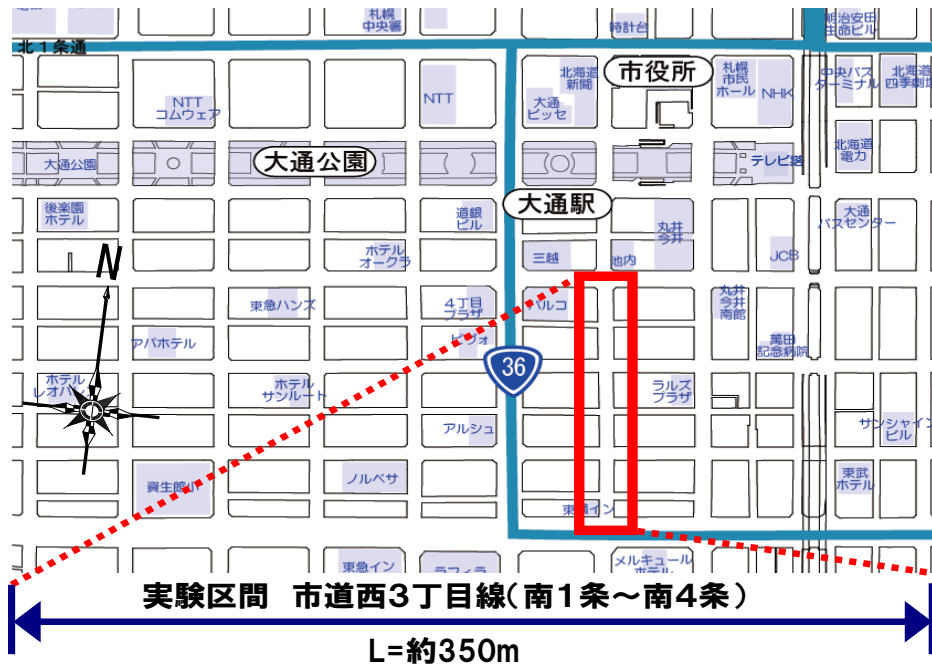
社会実験の概要

期間:平成26年9月24日(水)～平成26年10月1日(水)

内容:

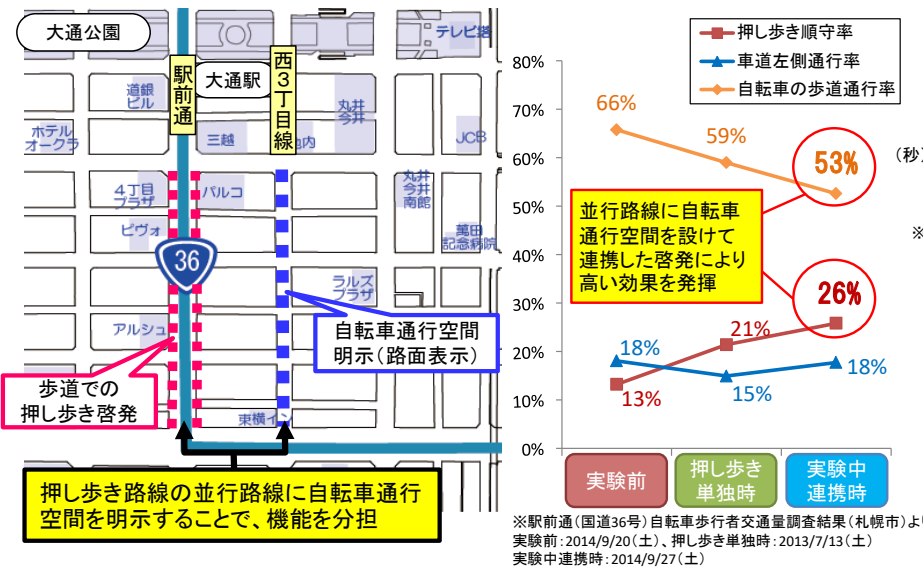
1. 道路空間再配分(車線減少)による安全な交通環境の実現

- ・歩道を走行する自転車を車道に転換するため、**車道へ自転車通行空間を創出**する。
- ・**バスと自転車との交錯に配慮した対策**も検討し、札幌都心部有数のバス路線におけるバスの安全運行にも配慮した形とする。
- ・沿線の駐停車(特にバス専用規制時間帯の停車)抑制に向けて、地域が主体となって**荷捌き等の空間の利用方法・ルールづくり等のソフト対策**を検討・試行。



実験結果

【押し歩きと自転車通行空間整備による連携の効果】

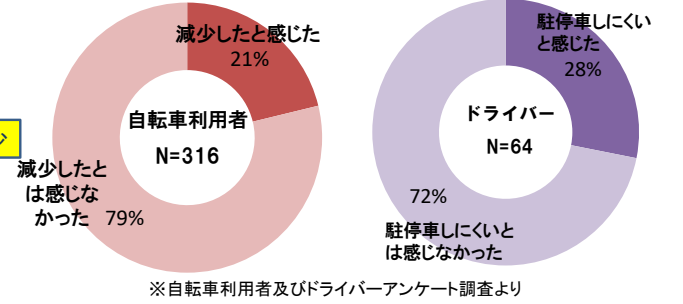


【駐停車台数の比較】



※路上駐停車調査における路面表示を設置した車道左側の値

【実験時の駐停車の減少について】【路面表示による駐停車への意識】



◆安全性への影響について
 自転車通行位置の明示により、現況よりよくなったという意見があった反面、路面表示だけでは不安、車道通行の自転車が増えたことのリスクを不安視する意見もあった。(バス事業者ヒアリング結果より)

本格実施に向けた課題

- ・自転車通行空間の利用(歩道から車道通行への移行、並行路線からの転換)を促進させるためには、**整備水準の向上が必要**である。
- ・整備水準向上については、自動車との空間の分離(構造的分離・幅員確保)を求める声が多く、特にバス停付近では分離が求められており、バスの安全運行・定時運行を前提として引き続き検討が必要である。
- ・実験時には駐停車台数は減少したものの、依然駐停車は残っており、**空間の適切な利用には対策**(取締りのみに依存するものではない)が必要である。
- ・自転車以外の他の交通モードを含めた道路毎の役割の明確化と機能分担を考慮した、**「自転車ネットワーク計画」の検討**を進めることが必要である。